



バックヤード
が見れる
説明会が大人気!
◀ 詳細はこちら

株式会社
マツヤスーパー

京都市山科区竹鼻地藏寺南町9番地1 (営業本部)
TEL:075-501-3388
http://www.matsuyasuper.co.jp/
従業員数:正社員168名
準社員・パート・アルバイト・属託773名
合計 941名
設立:1961年8月
主な事業内容:スーパーマーケットの経営、
ショッピングセンターの運営開発



JOB INFORMATION

正社員募集

「おっちゃんとおばちゃん」の求人広告を
見て応募です」とお伝えください。

店舗管理スタッフ

※2026年2月時点の情報です。

【内容】店長、バイヤー、トレーナー、幹部(商品部・店舗運営部・開発部・管理部・情報システム部・販売促進部)等の候補生として研修、店舗など現場での実務経験を積んでいただきます。

【給与】大卒270,000円 短大卒252,000円
【諸手当】通勤交通費(月額50,000円まで支給)、時間外勤務手当など。昇給:年1回 賞与:年2回

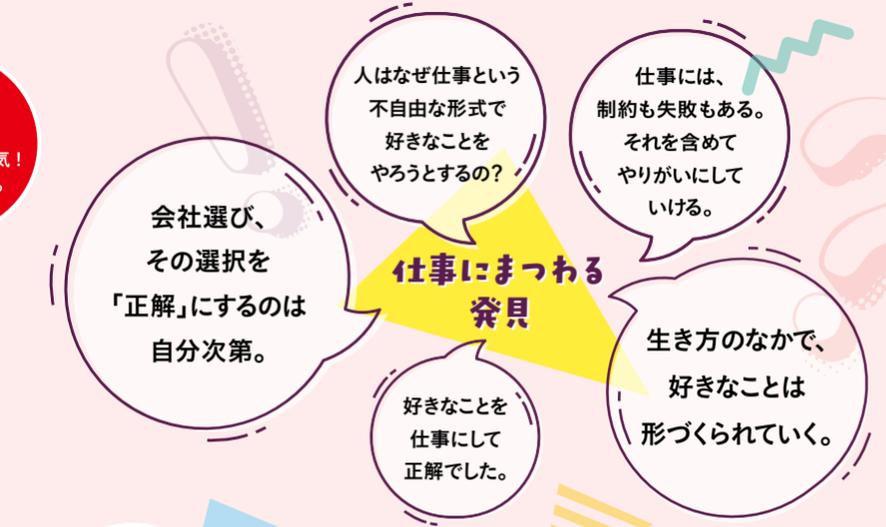
【勤務地】京都、滋賀
【勤務時間】7:30~24:00の間で実働8時間
【休日】年間合計113日(交替制)、年次有給休暇、特別有給休暇

【福利厚生】健康保険、雇用保険、厚生年金、労災、財形貯蓄、確定給付企業年金(退職金制度)、確定拠出年金、定年退職者再雇用制度、育児休業制度、育児短縮勤務制度、介護休業制度、介護短縮勤務制度、グループ保険共済制度、社員持株会、リゾートトラスト(リゾートホテル)加入 など
【その他】UAゼンセンマツヤスーパー労働組合
※入社後、加入していただきます。

【教育制度】
新入社員研修、各担当者研修会、
通信教育研修、資格取得支援制度 など

【連絡先】
まずは一度お電話ください。
☎075-501-3388
(担当:高谷・横山)

新卒採用を目的とした広報活動は、その年の内閣府提示の日程に準じます(例・広報活動開始は卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降)。「在学中のみなさんが今年年生なのか」に応じて、時期によりお伝えすべき情報は変わります。詳細は人事部に直接お問合せください。



「その道、ワクワクする?」「考え続ける永遠のテーマ」

学生4人と社会人2人が議論を重ねるうちにわかったのは、仕事と好きの距離は十人十色で違うことだ。「好きなことを仕事にするべきか、それとも」

「結論 人によって「好き」のありようは多様だから、一律な答えはない。ただ、未来がわからない今は、その選択がワクワクするかどうかで決めたい。」



「好きなことは仕事にしないほうがいい」ってホント? 仕事と好きの関係を考える

マツヤスーパー 管理部 部長 高谷 歩さん

京都芸術大学 4年 宮口 さん

京都大学4年 廣瀬 さん

立命館大学 3年 山内 さん

マツヤスーパー 第一商品部 惣菜担当バイヤー 林 郁生さん

京都大学 4年 安田 さん

「好きなこと・やりたいこと」と「仕事」の関係は? 「働く」について悩む学生4人が「大人の意見を聞いてみたい」とマツヤスーパーを訪問した。社会人歴の長い2人に話を聞いた。

マツヤスーパーとは

京都・滋賀で地域密着を貫き、1店舗あたり年間平均売上高28・7億円。地域密着・現場主導・高い売上を同時に成立させている、食品小売業界トップクラスの強さがある企業。

学生も社会人もみな意見はバラバラ

「好きなことを仕事にするべきか、それとしない方がいいのか?」、これは「働く」を考える上で永遠のテーマだ。4人の学生それぞれが考えた「好きと仕事の関係」は次のとおり。

1人目の学生、宮口さんは本が好きで、「好きな本に囲まれて働きたい」と考えて、書店から内定を得た。

2人目の安田さんは、「仕事は、好きなことを経済的に支える相棒のような存在にとらえています」。

3人目の山内さんは「やりたいことは見つかりません。仕事をするなかで見つかるのかなと想像しながらも就職先をどんな基準で選んだらいいのか、悩んでいます」。

4人目、大学院に進学する廣瀬さんも「好きと仕事の関係」に考えを深めている。「その業界を深く知りたいなら、それを仕事にするべき」と考えるが「好きを仕事にする」は幸せ? ちょ

「お菓子やお酒、食が好きで、バイヤーとして産地をまわり、知識を得ることがますますおもしろくなる。それをお客さまに伝えることで商品が売れる。自分の思いが仕事になることで成長し、何十年経っても楽しいです」。

そして、同じ会社に勤めていても同じ意見とは限らない。同社の林さんは、「好きとは別に、とりあえず働いた」派。食にも興味なかったが、「社会勉強のつもり」でマツヤスーパーに入社。合わなければ3年で辞めようと考えていた。ところが今年で23年も勤務し、現在は、惣菜バイヤーとして働く。コロナ禍では、普段の食生活を支えることを重視するマツヤスーパーの社会における意義を実感した。

林さんは語る。「僕は、「好きだから」というよりは、「強みを活かす」という観点で働いています。働いていると企業によさも、自分の「強み」も見えてくる。会社はその「強み」に給与を払う。そんなふうシンプルに考えて成長し、楽しんでいきます」。

それを聞いて、発見があった廣瀬さん。「好きと仕事だけでなく、強みと仕事の関係を考えてもいいのかも」。林さんは「私は失敗や困難をどう乗り越えるかを考えるのが得意な性格です。問題にぶつかっても対処も早い。バイヤーとして、この力が評価されています」。

学生4人は「そういう考え方もあるんだ」と納得。安田さんは「僕の考え方も好きよりも得意を意識して、仕事を探しました」と話す。

「働いてから初めてわかることもあります。だから、みなさんのようにどの道を選ぶか迷っている段階では、未来はわからない。だったら、今は「その道が、ワクワクするか?」「決めていいんじゃないかな」。

学生4人に笑顔が広がった。